

# 手織座

八田尚之は小樽市緑町生まれ。小樽中学（現・小樽潮陵高校）卒業後上京。映画界に入り「若人」「坊ちゃん」「放浪記」等の文芸映画のシナリオでその名を知られ、一時代を画しました。その一方で美空ひばり・江利チエミ・雪村いづみの「ジャンケン娘」などの娯楽映画にも才能を発揮しました。

昭和28年（1953）、妻で女優の宝生あやこと共に劇団（手織座）を結成。演劇を通じて、時に悩みや悲哀を味わおうとも、ひたむきに生きる人々の姿をヒューマンな筆致で描きあげました。「胸底にしまい忘れた皆の素朴な魂をゆさぶる芝居が作りたい」というのが、彼の変わらぬモットーでした。

故郷を愛し、昭和39年（1964）5月に、落成したばかりの小樽市民会館で、手織座の小樽初公演を大成功させましたが、そのわずか3ヶ月後、狭心症で突然に世を去りました。本展覧会では、彼の、演劇に込めた深い情熱を、その遺品を通してご紹介いたします。



左・宝生あやこ 右・八田尚之

手織座発足を祝って  
武者小路実篤が寄せた書。  
第一回公演は武者小路作品の翻案  
「愛（かな）しきは」（1954）であった。



「チュウ族の饗宴」1957



「偉大なるM氏」1956



「ポテト二世と楽器のない楽団」1961

## （講座）

「娯楽映画も二次創作も！

現代に通じる八田作品の魅力」

講師・亀井志乃（市立小樽文学館長）

2023年5月3日（水・祝）

午後2時～3時半

場所・小樽文学館研修室 聴講無料

定員40名 要予約 4月1日より受付

0134・32・2388

文学館 Twitter

